

象意探偵

第二十二回目

お題：支配



「世界征服」。多くのフィクションで描かれますね。物語では世界征服が目的ですが、筆者はいつも思います。世界征服した後は何をするのかね、と。意外に世界征服した先の目的（上位目的）が示されているフィクションは少ないです。宇宙戦艦ヤマトの敵は、地球征服（というより人類抹殺）後は自分たちが移住するつもりでした。それ以外の作品の上位目的がさっぱりわかりません。お子様に人気のヒーローや魔法っ子の敵は、征服後の世界で何がしたいのか不明です。

これがフィクションの世界でないのが驚きです。「世界征服」と言うと人は歯牙にも掛けませんが、「覇権」と言いかえればいかがでしょう。実際覇権をとろうとする国がありますね。ロシア、中国です。かれらが外の土地、人を侵略し続け、仮に世界征服に成功したとして、その先に何があるでしょう。

戦後、世界征服をなしたのはアメリカです。アメリカが征服した後にはどのようなことかと言えば、経済発展しました。さまざまな工業、文化が生まれました。今世界に認められた日本のマンガ、アニメ、キャラクター文化は、戦前に生まれたとはいえず、急激な発展は戦後です。アメリカの征服下の世

界だから発展した話です。征服の先に、物質、文化の豊かさがありました。アメリカ自身もそれを享受しました。アメリカ一国で全てを生むことはできない。世界中の人々が自由に発想して作るから、凄い製品、面白い文化が生まれます。アメリカも他の国もそれらを輸入し、互いに刺激しあい、さらに面白い物を作ろうとする。ここからアメリカの世界征服の上位目的は、物質、文化の豊かさを享受すると言えるかもしれません。これを「自由主義陣営」というキャッチフレーズで宣伝してきました。この考えを受け入れたのが今の日本でしょう。

仮に北朝鮮が征服した世界を想像してみてください。ただ単に「俺が支配する」という目的でなした征服がどのようになるか見えてきます。それは豊かな物、文化が生まれない世界です。北朝鮮内で作られた本、TV、映画は流行りますか？ノン（ポアロ風に言う）。誰も見向きもしません。国民は韓国ドラマ、音楽を密輸入します。重い処罰覚悟で。時計や服、バッグも同じです。これは国内に優れたもの、面白いものが何も無いからです。※1. 北の独裁者は自分自身がヨーロッパに留学し、近親者だけが数億円かけて服飾品を密輸します。※2. 世界征服した後、国、国民を豊かにせねば、独裁者自身も不便になります。自分が留学中スキーをしたものだから、国内にスキーや砂浜リゾートを造りました。国内に無いから造らせても、「誰が

いくねん」状態では、独裁者自身も行きません。表向き出ていませんが、独裁者が自国映画を作らせた理由は、自分がハリウッドの映画が好きだったからという噂も。独裁者、ハリウッド映画、見とるんかゝい。

このようにアメリカと北朝鮮を見比べるとわかる事があります。世界征服した支配者自身が喜ぼう・楽しもうと思うなら、支配地域の民を豊かにし、自由な発想・生産行為を産みだす土壌を培う必要があると（下位目的）。そのために平和、安全、食糧、環境、文化、教育の整備が必要。これらが世界征服後の必須事業、運営になります。

ところが今年、戦後のアメリカ征服の世界を、アメリカ自身が壊しています。征服のベースになる自由主義陣営という枠組を、アメリカ自身が嫌がっています。NATO、国連、さまざまな寄り集まり、協定。それは征服後の世界維持に大切な自由主義陣営のあつまりです。平和維持も放棄しています。征服した世界の維持コストが馬鹿にならないからというの、オバマ、トランプの理由です。しかし前述したような事業、運営はタダでできないのは当たり前。そして運営しなければ国民が豊かになりません。国民が豊かでなければ、支配者の喜びが持続しません。支配者SDGsといったところ。自分も国民も豊かになるにはコストがかかる。この心構えを、今、どこの国が持っているでしょうか。

※1…ソ連崩壊時に、東ドイツなどソ連圏の自動車は、60年代のまま変わっていなかった事がわかり、世界が驚きましたね。
※2…ちなみに北の年間一人当たりGNIは13万円ほど。

支配と力

気学では、征服や支配をどのように考えているのでしょうか。

一白水星から順にみてゆくと、最初にひっかかりそうなのが五黄

土星ですね。中央に坐するため、「支配」の象意が出てきます。この「支配」はどのようなものか考えてみましょう。単独では考えにくいでしょうから、比較として六白金星を挙げて考えます。六白金星にはどのようなものがあるでしょうか。最上位の人、実質権力を握る人、統率する人がありますね。力がキーポイントですね。さて問題。これら力ある人は「支配」の五黄土星と無関係でしょうか。少し考えてみてください。

「木魚音…ポク、ポク、ポク、ポク……」

どう考えても、力と「支配」を切り離すのは難しそうですね。習近平やプーチンの権力がなくなれば、彼らはたちまち世界から消えてしまうかもしれません。つまり力と支配は一体。

かりに力があっても支配しないということはあるのでしょうか。影のボス。細かい事は表面きのトップに任せますが、大きな目的は影のボスの思うままです。いざという時は表の連中に働きかけ、従わねば罰します。結局影であろうと支配しています。やはり力と支配は一体です。

それではなぜ五黄土星、六白金星に分けて述べているのでしょうか。まだわかりませんね。

力に頼らない支配

では別のパターン。ダライ・ラマは支配しているでしょうか。マザー・テレサはどうでしょうか。ガンジーはどうでしょうか。

たしかに組織の運営に彼らは必要です。部下？たちは、彼らの意図を汲み取ろうとします。そこでトップは細かい点まで

組織の者に強制し、気に入らなければ罰を与えた（ている）でしょうか。ガンジーの伝記をみると、行進を行っている最中、ガンジーは組織運営をしていなかったそうです。多くの人が自主的に集まり、万という数になっても、ガンジーはトイレ掃除をしていたと。やっと出てきました。支配と強制力が異なる例が。しかしこのような例は何千年の歴史の中でも僅かでしょう。よって少し強制力を持たせた例を探しましょう。

例えば紀元前四〇〇年頃の呉起。軍の將軍です。將軍ですから命令します。この意味では力で支配し統率しています。しかし部下を大切にしたと言われています。移動のときは歩き、部下と同じ物を食べ、同じ所に寝ました。苦しむ部下の膿をすすったこともあります。支配しようと思えばいくらでも強制できる立場です。

象意探偵へのお便り募集中

みなさんの生活でふと「これって象意なんだろう？」

って思うことはありませんか？

象意はシンプルなものと複雑に絡み合うものなどさまざまです。そして気学の学びを深めるにも象意の理解は大事ですね。

ぜひ、調べてほしいな。と思うものがあれば遠慮なくお便りください。探偵が張り切ってお調べします！

↓お便りフォーム↓



命令だ、命令違反で罰するぞと言えば良いのですから。しかし多くの部下の視点を忘れなかった。強制はしているものの、100%力に頼らない支配の例です。殺し合いを目的にした組織の中で、衆の心の支えになった。言い換えれば、衆のすさんだ心を豊かにしたと言えるかもしれません。

以上のようにみていると、ただの「支配」と違う面がみえてきますね。大衆を罰する支配もある。大衆を豊かにする支配もある。この観点から、もういちど、支配、力ある者のシチュエーション、九星、象意の違いを考え直してみてください。

おわりに

ここまで示したように、支配、権力と言っても様々な面があります。象意の中には、何が違うかを改めて問いかけると、理解が難しい物があります。今回示した支配、力以外にも、筆者は「君臨」を問題提起しておきます。考えてみてください。

それでは次回もおたのしみに。

~~~~~  
これを書いた人

社会運勢学会認定講師 村上太佑  
社会運勢学会の象意探偵です。